

10月13日(水)

本年度第14回(通算2560回)18時30分～ 釧路プリンスホテル

『職業奉仕講演会(深川先生)』 担当/ロータリー情報委員会

☆お客様と来訪ロータリアン

・深川純一君 (伊丹RC 第2680地区PDG)
・石川俊二君、三木克敏君、田村愿康君、佐藤和彦君、三宮久蔵君、山本秀基君、 中川陽市君、佐久間好明君 (釧路西RC)
・草島守之君、佐藤公俊君、丸山敏徳君、川上登君 (釧路東RC)
・黒木満君、若狭谷圭司君、池田圭樹君 (釧路ベイRC)
・中山大三郎君 (北見東RC) ・山田圭祐君 (白糖RC)
・小林美穂さん、小泉未希さん、小甲薫さん (以上3名 釧路北RC)

☆メイクアップ

☆出席報告【会員総数68名 免除13名 出席計算に用いた会員数68名】

次回の報告とさせていただきます

☆ニコニコ献金 (今年度累計 287,000円)

- ・深川先生本日は宜しくお願ひ致します 三原克也君、泰地浩幸君
- ・職業奉仕合同例会ありがとうございます 丹葉一恵さん
- ・深川先生を迎えて 小松亮次君、平澤利秀君
- ・深川先生宜しくお願ひします 斉藤憲一君、中嶋嘉昭君

☆会長挨拶

今日は北RCロータリー情報委員会・ロータリー研修委員会合同による、RI2680地区深川純一
パストガバナーをお招きしての、職業奉仕講演例会に、市内・分区内のクラブ・RAC、さらには
第5分区北見東RCの中山様にも出席をいただき、このように多くの会員の皆様にお越しを頂き
ましたことに感謝を致します。

深川パストガバナーに於かれましては、大変ご多忙の中、遠く兵庫県よりご来釧頂きました。
釧路北RC創立50周年には「永遠の課題・職業倫理」と題しての特別記念講演、そして昨年10月
には再び釧路に来る機会を得まして、「職業倫理パート2」としてお話を頂き、共に大変心に残る
感銘深いご講演でした。今回はロータリーの掲げる職業奉仕について、またRIの動向につきま
してもご講演を頂きます。特に若い会員の方々に理解を深めて頂きたく各クラブにもご案内を
させて頂きました。ロータリークラブとしての職業奉仕の役割、また会員一人一人が職業奉仕
をどのように生かしていくかということ、深川パストガバナーのお話しの中から、修得して
いただければと思います。本日はご出席を頂き、まことにありがとうございます。

☆幹事報告

- ①釧路西、東、南、ベイ、根室、厚岸RCよりプログラムのご案内と会報が届いております。
- ②ガバナーエレクト事務所開設のご案内が届きました。
- ③釧路北ローターアクトクラブより10月24日(日) 午前10釧路市消防本部にて防災体験例会の案内
が届いております。
- ④次週商業高校にて(株)あんずカンパニーの須藤隆昭氏をお招きして就職指導講演会が行われます。
- ⑤ガバナー事務所よりロータリー財団地域セミナー及びゾーンチーム会議のご案内が届いており
ます。会場は大阪国際会議場で11月24日に行われます。レイ・クリンギンスミスRI会長
が来日されます。参加される方は回覧致しましたのでご覧ください。



☆講師 深川純一 パストガバナー

今日は足立先生のお肝煎りでお招きを頂きまして誠に有難うございます。先程、三原会長の方から今日のテーマについて「職業奉仕とR Iの動向」というお話がありましたが、R Iの動向までは時間の関係で到底お話することが出来ませんのでこれは割愛します。そこで、今日は、ローターアクトの人達や新会員の方々もご参加と聞いておりますので、「職業奉仕のいろは」とでもいうべき基礎的な話を申し上げたいと思います。

ただ、「いろは」と謂えば、一般には、**物事の始まりとか初歩的なこと**という意味にとられているようですが、実は、この「いろは」という言葉の本来の意味は、原始仏教の大般涅槃經の一節「**色は匂へど散りぬるを我が世誰そ常ならむ 有為の奥山今日越えて浅き夢見じ酔ひもせず**」という言葉から来ているのでありまして、これはお經の核にある大切な言葉であります。したがって、「職業奉仕のいろは」というときも、単なる初歩的なことという意味ではなく、職業奉仕を理解するために一番大切なことは一体何か、という視点からお話しを申し上げたいと思います。

さて、職業奉仕は難しいという話をよく聞きます。また、一方、職業奉仕ほど易しいものはない、ただロータリアンがそれを実践しないだけだという話も聞きます。どちらが本当なのか、どちらも本当なのかも知れません。職業奉仕は難しいかも知れない。

しかし、難しくないかも知れないのであります。

そこで、先ず、職業奉仕を理解するために、どうしても心に留めておいて頂きたいことは、ロータリー運動と申しますものは、**倫理運動**であるということです。即ち、ロータリークラブは、寄付団体でも慈善団体でもボランティア団体でも

ありません。確かに、現象としては、ロータリークラブは寄付もします。福祉の慈善行為もします。そしてボランティア活動もします。しかし、それらは全てロータリーに本質的なことではないのであります。

ロータリーは、ロータリアンに奉仕の心を授け、世の中に倫理を提唱していく団体、即ちロータリアンの心の開発を第一義とする団体なのであります。したがって、例えば、街角に**タバコの吸い殻**が落ちていたとします。ロータリアンとしては、町を美しくするためにそれを避けて通ることはできません。必ずその吸い殻を拾うでしょう。しかし、ロータリーは、**タバコの吸い殻を拾うところ**にロータリーの本願はないよ、と言います。タバコの吸い殻を拾うことは避けて通ることができないにも拘らず、それを拾うところにロータリーの本願はない、と言うと、一体どこにロータリーの本願があるのか。



実は、ロータリーは、そもそもタバコの吸い殻を捨てない人を育てるところに本願があるというのであります。人を育てること、道徳を守る人間を作ること、そのことによって世のため人のために動いて行こうとロータリーは言うのであります。見方を変えれば、それがまさにロータリーが倫理運動だと謂うことを意味するのであります。

この点をとらえて、ある学者は、『**ロータリーとは、人類文化史が20世紀の時代に刻印を打った職業人の最も優れた倫理運動である**』と断言しているのであります。この倫理運動であるという視点を見失いますと、ロータリーの職業奉仕が判らなくなります。ひいてはロータリー自体が判らなくなるのであります。

続きは特別号を発行しておりますので、そちらで、講演の全文がお読み頂けます。